

③関係資料（令和7年度教育課程表、データ、参考資料など）

① 令和7年度の教育課程表

平成29年度（第Ⅲ期）から、理数科・普通科全ての学年に、SSH事業に係る学校設定科目を開設した。

1. 理数科

教科・科目	学年	標準 単位数	令和7年度入学生(第1学年)			
			1年	2年	3年	単位数計
各 学 科 に 共 通 す る 教 育 的 課 目	現代の国語	2	2			2
	言語文化	2	2			2
	論理国語	4		2	2	4
	古典探究	4		3	2	5
	地理総合	2	2			2
	地理探究	3		2	3	5
	歴史総合	2			2	2
	公民	2	2			2
	公共	2	2			2
	保健 体育	7~8	3	2	2	7
科 外 国 語 目	音楽Ⅰ	2				0.2
	美術Ⅰ	2				0.2
	書道Ⅰ	2				0.2
	英語コミュニケーションⅠ	3	3			3
	英語コミュニケーションⅡ	4		4		4
	英語コミュニケーションⅢ	4			4	4
	論理・表現Ⅰ	2	2			2
	論理・表現Ⅱ	2		2		2
	論理・表現Ⅲ	2			2	2
	家庭 家庭基礎	2	2			2
小計		21	16	17	54	
理 数	理数数学Ⅰ	4~8	5			5
	理数数学Ⅱ	6~12	1	5	4	10
	理数数学特論	2~6		2	3	5
	理数物理	3~9	2	3	4	2.9
	理数化学	3~9	2	3	4	9
	理数生物	3~9	2	3	4	2.9
	SSH 青雲課題研究プレ	1	1			1
青雲課題研究	3		3		3	
青雲課題研究AP	1			1	1	
プログラミング	2		2		2	
情報 情報探究	1			1	1	
小計		13	18	17	48	
履修単位数合計			34	34	34	102
特別 活動	ホームルーム活動(週あたりの時間数)		1	1	1	
生徒会行事						
学校行事						別途計画

- ※ 1~2・3年次の「総合的な探究の時間」は、「青雲課題研究プレ」と「青雲課題研究」と「青雲課題研究AP」で代替する。
- ※ 「理数探究」は、「青雲課題研究」で代替する。
- ※ 「情報Ⅰ」は、「プログラミング」で代替する。
- ※ 「数学Ⅰ」は、「理数数学Ⅰ」で代替する。
- ※ 「物理基礎・物理」は「理数物理」、「化学基礎・化学」は「理数化学」、「生物基礎・生物」は「理数生物」で代替する。
- ※ 1年次において、理数数学Ⅰを履修終了後、理数数学Ⅱを実施する。
- ※ 2年次に選択した理数物理または理数生物は、3年次も継続して履修しなければならない。

教科・科目	学年	標準 単位数	令和6年度入学生(第2学年)			
			1年	2年	3年	単位数計
各 学 科 に 共 通 す る 教 育 的 課 目	現代の国語	2	2			2
	言語文化	2	2			2
	論理国語	4		2	2	4
	古典探究	4		3	2	5
	地理総合	2	2			2
	地理探究	3		2	3	5
	歴史総合	2			2	2
	公民	2	2			2
	公共	2	2			2
	保健 体育	7~8	3	2	2	7
科 外 国 語 目	音楽Ⅰ	2				0.2
	美術Ⅰ	2				0.2
	書道Ⅰ	2				0.2
	英語コミュニケーションⅠ	3	3			3
	英語コミュニケーションⅡ	4		4		4
	英語コミュニケーションⅢ	4			4	4
	論理・表現Ⅰ	2	2			2
	論理・表現Ⅱ	2		2		2
	論理・表現Ⅲ	2			2	2
	家庭 家庭基礎	2	2			2
小計		21	16	17	54	
理 数	理数数学Ⅰ	4~8	5			5
	理数数学Ⅱ	6~12	1	5	4	10
	理数数学特論	2~6		2	3	5
	理数物理	3~9	2	3	4	2.9
	理数化学	3~9	2	3	4	9
	理数生物	3~9	2	3	4	2.9
	SSH 青雲課題研究プレ	1	1			1
青雲課題研究	3		3		3	
青雲課題研究AP	1			1	1	
プログラミング	2		2		2	
情報 情報探究	1			1	1	
小計		13	18	17	48	
履修単位数合計			34	34	34	102
特別 活動	ホームルーム活動(週あたりの時間数)		1	1	1	
生徒会行事						
学校行事						別途計画

- ※ 1~2・3年次の「総合的な探究の時間」は、「青雲課題研究プレ」と「青雲課題研究」と「青雲課題研究AP」で代替する。
- ※ 「理数探究」は、「青雲課題研究」で代替する。
- ※ 「情報Ⅰ」は、「プログラミング」で代替する。
- ※ 「数学Ⅰ」は、「理数数学Ⅰ」で代替する。
- ※ 「物理基礎・物理」は「理数物理」、「化学基礎・化学」は「理数化学」、「生物基礎・生物」は「理数生物」で代替する。
- ※ 1年次において、理数数学Ⅰを履修終了後、理数数学Ⅱを実施する。
- ※ 2年次に選択した理数物理または理数生物は、3年次も継続して履修しなければならない。

教科・科目	学年	標準 単位数	令和5年度入学生(第3学年)			
			1年	2年	3年	単位数計
各 学 科 に 共 通 す る 教 育 的 課 目	現代の国語	2	2			2
	言語文化	2	2			2
	論理国語	4		2	2	4
	古典探究	4		3	2	5
	地理総合	2	2			2
	地理探究	3		2	3	5
	歴史総合	2			2	2
	公民	2	2			2
	公共	2	2			2
	保健 体育	7~8	3	2	2	7
科 外 国 語 目	音楽Ⅰ	2				0.2
	美術Ⅰ	2				0.2
	書道Ⅰ	2				0.2
	英語コミュニケーションⅠ	3	3			3
	英語コミュニケーションⅡ	4		4		4
	英語コミュニケーションⅢ	4			4	4
	論理・表現Ⅰ	2	2			2
	論理・表現Ⅱ	2		2		2
	論理・表現Ⅲ	2			2	2
	家庭 家庭基礎	2	2			2
小計		21	16	17	54	
理 数	理数数学Ⅰ	4~8	5			5
	理数数学Ⅱ	6~12	1	5	4	10
	理数数学特論	2~6		2	3	5
	理数物理	3~9	2	3	4	2.9
	理数化学	3~9	2	3	4	9
	理数生物	3~9	2	3	4	2.9
	SSH 青雲課題研究プレ	1	1			1
青雲課題研究	3		3		3	
青雲課題研究AP	1			1	1	
プログラミング	2		2		2	
情報 情報探究	1			1	1	
小計		13	18	17	48	
履修単位数合計			34	34	34	102
特別 活動	ホームルーム活動(週あたりの時間数)		1	1	1	
生徒会行事						
学校行事						別途計画

- ※ 1~2・3年次の「総合的な探究の時間」は、「青雲課題研究プレ」と「青雲課題研究」と「青雲課題研究AP」で代替する。
- ※ 「理数探究」は、「青雲課題研究」で代替する。
- ※ 「情報Ⅰ」は、「プログラミング」で代替する。
- ※ 「数学Ⅰ」は、「理数数学Ⅰ」で代替する。
- ※ 「物理基礎・物理」は「理数物理」、「化学基礎・化学」は「理数化学」、「生物基礎・生物」は「理数生物」で代替する。
- ※ 1年次において、理数数学Ⅰを履修終了後、理数数学Ⅱを実施する。
- ※ 2年次に選択した理数物理または理数生物は、3年次も継続して履修しなければならない。

2. 普通科

教科・科目	学年	単位数	令和5年度入学生(第1学年)									単位数計				
			1年			2年			3年			文A	文B	理		
			文A	文B	理	文A	文B	理	文A	文B	理					
国語	現代の国語	2	2								2	2	2			
	言語文化	2	3								3	3	3			
	論理国語	4		3	3	2		3	3	3	6	6	5			
	古典探究	4		3	3	3		4	4	3	7	7	6			
地理	地理総合	2	2								2	12	2			
	歴史総合	3	2			2				3	0.6	0.5	5			
	歴史総合	3	2			2				3	0.6	0.5	5			
	歴史総合	3	2			2				3	0.6	0.5	5			
公民	公共	2		3	2	2					3	2	2			
	倫理	2								3	0.3	0	0			
	政治・経済	2								3	0.3	0	0			
	政治・経済	2								3	0.3	0	0			
数学	数学I	3	2								2	2	2			
	数学II	4	2	2	2	1					4	4	3			
	数学III	3				2					0	0	2			
	数学A	2	2								2	2	2			
	数学B	2		2	2	2					2	2	2			
	数学C	2		2	2	2					2	2	2			
	数学総合A	2						2	2	2	2	2	2			
数学総合B	4						4	4	4	4	4	4				
理科	科学と人間生活	2	2								2	2	2			
	物理基礎	2									0.4	0.4	0.2			
	物理	4									0	0	0.5			
	化学基礎	2									0.4	0.4	2			
保健体育	体育	7~8	3	3	3	3		2	2	2	8	8	8			
	保健	2	1	1	1	1					2	2	2			
	保健	2	1	1	1	1					2	2	2			
	保健	2	1	1	1	1					2	2	2			
芸術	音楽I	2									0.2	0.2	0.2			
	音楽II	2									0.1	0.1	0			
	美術I	2									0.2	0.2	0.2			
	美術II	2									0.1	0.1	0			
外国語	英語コミュニケーションI	3	4								4	4	4			
	英語コミュニケーションII	4		4	4	4					4	4	4			
	英語コミュニケーションIII	4						5	5	5	5	5	5			
	論理・表現I	2	2								2	2	2			
家庭	家庭基礎	2	2								2	2	2			
	家庭基礎	2	2								2	2	2			
	情報I	2	2								2	2	2			
	情報I	2	2								2	2	2			
小計	計	33	33	33	33	33	32	32	32	98	98	98				
特別活動	SSH 青峰探究	3	1	1	1	1	1	1	1	1	3	3	3			
特別活動	情報・情報探究	2								1	1	1				
小計	計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				
各教科・科目	計	34	34	34	34	34	34	34	34	102	102	102				
履修単位数合計	計	34	34	34	34	34	34	34	34	102	102	102				
特別活動	総合的な学習の時間(週1時間)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				
特別活動	生徒会行事															
特別活動	学校行事															

- ※ 1・2・3年次の総合的な探究の時間は、「青峰探究」で代替する。
- ※ 1年次において、数学I・数学Aを履修終了後、数学IIを実施する。
- ※ 1年次に選択した芸術の科目は、2年次も継続して履修しなければならない。
- ※ 2年次に選択した地理の科目は、3年次も継続して履修しなければならない。なお、文Bでは地理を2科目履修する。
- ※ 2年次において、文系で選択した理科基礎科目は、3年次も継続して履修しなければならない。
- ※ 2年次において、理系では数学IIを履修終了後、数学IIIを実施する。
- ※ 2年次において、理系では化学基礎を履修終了後、化学を実施する。
- ※ 2年次において、理系で物理基礎を選択した者は履修終了後、物理を実施する。3年次選択科目も物理を履修しなければならない。
- ※ 2年次において、理系で生物基礎を選択した者は履修終了後、生物を実施する。3年次選択科目も生物を履修しなければならない。

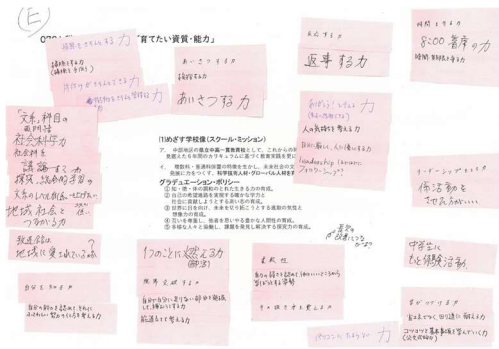
教科・科目	学年	単位数	令和5年度入学生(第2学年)									単位数計				
			1年			2年			3年			文A	文B	理		
			文A	文B	理	文A	文B	理	文A	文B	理					
国語	現代の国語	2	2								2	2	2			
	言語文化	2	3								3	3	3			
	論理国語	4		3	3	2		3	3	3	6	6	5			
	古典探究	4		3	3	3		4	4	3	7	7	6			
地理	地理総合	2	2								2	12	2			
	歴史総合	3	2			2				3	0.6	0.5	5			
	歴史総合	3	2			2				3	0.6	0.5	5			
	歴史総合	3	2			2				3	0.6	0.5	5			
公民	公共	2		3	2	2					3	2	2			
	倫理	2								3	0.3	0	0			
	政治・経済	2								3	0.3	0	0			
	政治・経済	2								3	0.3	0	0			
数学	数学I	3	2								2	2	2			
	数学II	4	2	2	2	1					4	4	3			
	数学III	3				2					0	0	2			
	数学A	2	2								2	2	2			
	数学B	2		2	2	2					2	2	2			
	数学C	2		2	2	2					2	2	2			
	数学総合A	2						2	2	2	2	2	2			
数学総合B	4						4	4	4	4	4	4				
理科	科学と人間生活	2	2								2	2	2			
	物理基礎	2									0.4	0.4	0.2			
	物理	4									0	0	0.5			
	化学基礎	2									0.4	0.4	2			
保健体育	体育	7~8	3	3	3	3		2	2	2	8	8	8			
	保健	2	1	1	1	1					2	2	2			
	保健	2	1	1	1	1					2	2	2			
	保健	2	1	1	1	1					2	2	2			
芸術	音楽I	2									0.2	0.2	0.2			
	音楽II	2									0.1	0.1	0			
	美術I	2									0.2	0.2	0.2			
	美術II	2									0.1	0.1	0			
外国語	英語コミュニケーションI	3	4								4	4	4			
	英語コミュニケーションII	4		4	4	4					4	4	4			
	英語コミュニケーションIII	4						5	5	5	5	5	5			
	論理・表現I	2	2								2	2	2			
家庭	家庭基礎	2	2								2	2	2			
	家庭基礎	2	2								2	2	2			
	情報I	2	2								2	2	2			
	情報I	2	2								2	2	2			
小計	計	33	33	33	33	33	32	32	32	98	98	98				
特別活動	SSH 青峰探究	3	1	1	1	1	1	1	1	1	3	3	3			
特別活動	情報・情報探究	2								1	1	1				
小計	計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				
各教科・科目	計	34	34	34	34	34	34	34	34	102	102	102				
履修単位数合計	計	34	34	34	34	34	34	34	34	102	102	102				
特別活動	総合的な学習の時間(週1時間)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				
特別活動	生徒会行事															
特別活動	学校行事															

- ※ 1・2・3年次の総合的な探究の時間は、「青峰探究」で代替する。
- ※ 1年次において、数学I・数学Aを履修終了後、数学IIを実施する。
- ※ 1年次に選択した芸術の科目は、2年次も継続して履修しなければならない。
- ※ 2年次に選択した地理の科目は、3年次も継続して履修しなければならない。なお、文Bでは地理を2科目履修する。
- ※ 2年次において、文系で選択した理科基礎科目は、3年次も継続して履修しなければならない。
- ※ 2年次において、理系では数学IIを履修終了後、数学IIIを実施する。
- ※ 2年次において、理系では化学基礎を履修終了後、化学を実施する。
- ※ 2年次において、理系で物理基礎を選択した者は履修終了後、物理を実施する。3年次選択科目も物理を履修しなければならない。
- ※ 2年次において、理系で生物基礎を選択した者は履修終了後、生物を実施する。3年次選択科目も生物を履修しなければならない。

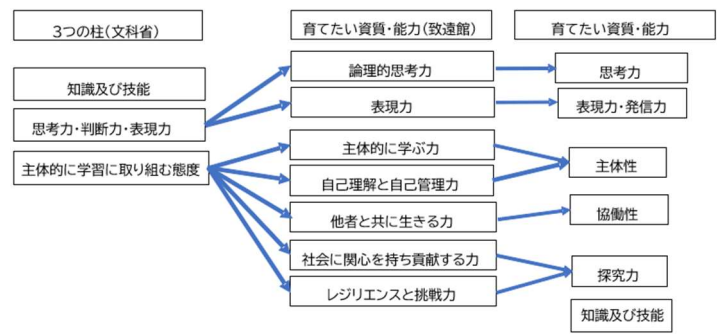
教科・科目	学年	単位数	令和6年度入学生(第2学年)									単位数計				
			1年			2年			3年			文A	文B	理		
			文A	文B	理	文A	文B	理	文A	文B	理					
国語	現代の国語	2	2								2	2	2			
	言語文化	2	3								3	3	3			
	論理国語	4		3	3	2		3	3	3	6	6	5			

②研究開発の分析の基礎資料となったデータ

1. 致遠館で育てたい生徒の資質能力会議資料とそのまとめ（令和7年7月実施）



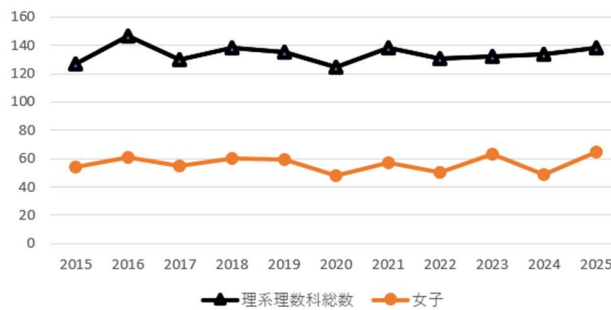
教員からのコメントの一部



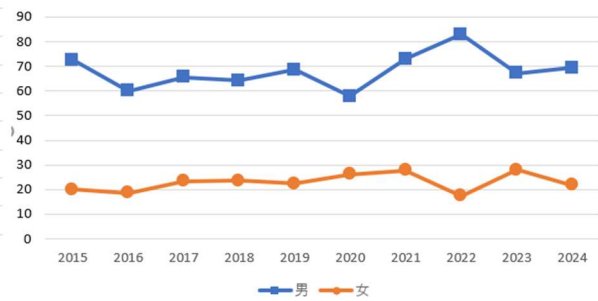
教員で共有した致遠館で育てたい生徒の資質能力

2. 理系女子の数と理工系学部進学率

普通科理系理数教科総数と女子の数



普通科理系・理数科生徒の理工系学部進学率



3. 理数科1年生技術士の話聞いてのアンケート結果

性別 男性50% 女性46.4% 回答しない3.6%

将来、技術者として仕事をしたいと考えていますか。はい6% いいえ35.7% 未定58.3%

未定と回答した生徒のコメント

技術者について知識が全くなかったけれどいろんな職業にかかわる資格と知って少し興味を持った。女性の意見も自分で調べてみて将来の視野に入れたいと思う。

このような講演は今までたくさん受けてきて比較するものではないと思いますが、自分的には一番興味を持ってました。自分でも技術士について調べてより興味を深めていきたいです。

技術士には様々な部門があり、一つの部門でも細かく科目が分かれていることがわかりました。まだ将来の仕事を明確に決めていないので技術士も視野に入れていきたいです。講演ありがとうございました。

技術士のことについてよく知れたし、まったく興味がなかったのが少し興味がわいてきました。

技術士に興味を持ち、なりたと思った。

今まであまり詳細には把握していなかった「技術士」という制度について知ることができた。

将来歩む道の1つとして候補に入れようと思った

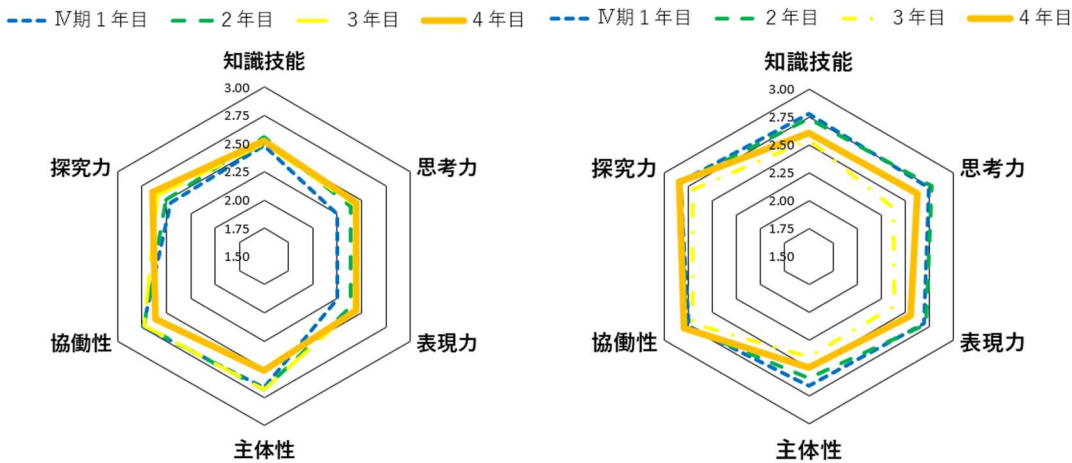
技術士がとても魅力的な職業であることが分かった。”今までの講演会の中で一番よかった

今まで技術士について全く知らなかったが将来技術士になってみたいと思えるようになった

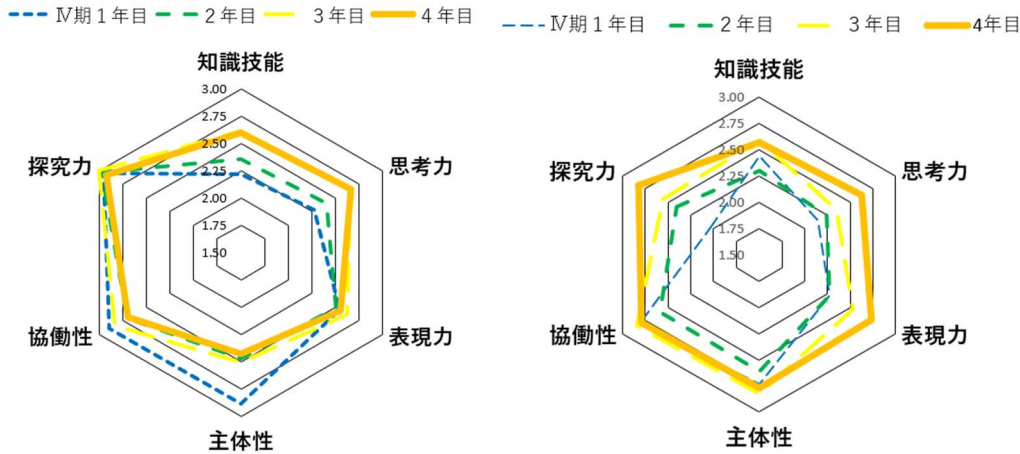
技術士を知っていましたか。はい1.2% 名前は聞いたことある35.7% 知らない63.1%

4. 致遠館で育てたい生徒の資質能力3段階評価レーダーチャート

青鵲課題研究プレ 評価推移



青鵲課題研究AP 評価推移



5. ハイレベルゼミナールで使用したアンケート内容

ほとんど当てはまらない1、ほぼ当てはまらない2、あまり当てはまらない3、少し当てはまる4、よく当てはまる5、とてもよく当てはまる6で、以下の14個の質問に生徒が回答。

- ① 私は、自然や科学のしくみを理解するための知識を身につけていると思う。
- ② 私は、自然や科学のしくみを調べるための方法を身につけていると思う。
- ③ 私は、自然や科学のしくみについて自分が学んだことを表現するための能力を身につけていると思う。
- ④ 私は、自然や科学のしくみについて自分が学んだことを他者に論理的に伝えるための能力を身につけていると思う。
- ⑤ 私は、自然や科学のしくみに関する問いを見つけることができていると思う。
- ⑥ 私は、自然や科学のしくみに関する問いを解決するために必要な知識や方法を進んで学ぼうとしていると思う。
- ⑦ 私は、自然や科学のしくみに関する問いを解き明かす行動ができていると思う。
- ⑧ 私は、自然や科学のしくみに関する問いに対する結果を解釈し、他者の考えを取り入れながら、よりよい結論を見いだせていると思う。
- ⑨ 私は、自分で学習することで、勉強していることの理解や興味が深まっていると思う。
- ⑩ 私は、他者とともに学ぶことで、勉強していることの理解や興味が深まっていると思う。
- ⑪ 私は、自分の学習や他者とともに学ぶ中で、自分の良さ(幸福感)が実感できていると思う。
- ⑫ 私は、自分の学習や他者とともに学ぶ中で、みんなの良さ(幸福感)が高まっていると思う。
- ⑬ 私は、自分の学習や他者とともに学ぶ中で培った力を繰り返し活用することで、自分自身をより高めることができていると思う。
- ⑭ 私は、自分の学習や他者とともに学ぶ中で培った力を発揮することで、人間や社会をよりよいものにすることに貢献できていると思う。

対象生徒	質問数	(6)-12	(6)-13	(6)-14	(6)-15	(6)-16
理数科1年	72					
理数科2年	72	理数科2年				
理数科3年	72					
普通科1年	72					
普通科2年	72	普通科2年				
普通科3年	72	普通科3年				
中学2年	72	中学2年	中学2年	中学2年	中学2年	中学2年
中学3年	72	中学3年	中学3年	中学3年	中学3年	中学3年
		1年間のSSHの学習活動によって、事実やデータに基づいて、関き手に研究内容を正確に伝える表現力や対話力を身に付けることができた。	1年間のSSHの学習活動によって、理数分野の応用や探究活動を通して物事の中に法則性を見出そうとする態度を身に付けることができた。	1年間のSSHの学習活動によって、物事のしくみや理由を明らかにする学習活動に必要な知識や技能を身に付けることができた。	1年間のSSHの学習活動によって、事実やデータに基づいて、筋道を立て結論を導き出す考え方を身に付けることができた。	1年間のSSHの学習活動によって、事実やデータに基づいて、関き手に研究内容を伝える表現力や対話力を身に付けることができた。
	●それぞれの質問の主旨は全て「私」です。					
理数科1年 有効回答数 105	そうだ どちらかというそう どちらかというそうではない そうではない 該当しない参加していない 無回答					
理数科2年 有効回答数 115	そうだ どちらかというそう どちらかというそうではない そうではない 該当しない参加していない 無回答	54.4 43.0 2.6 0 0 0				
理数科3年 有効回答数 111	そうだ どちらかというそう どちらかというそうではない そうではない 該当しない参加していない 無回答					
普通科1年 有効回答数 113	そうだ どちらかというそう どちらかというそうではない そうではない 該当しない参加していない 無回答					
普通科2年 有効回答数 116	そうだ どちらかというそう どちらかというそうではない そうではない 該当しない参加していない 無回答	56.3 42.5 1.3 0 0 0				
普通科3年 有効回答数 81	そうだ どちらかというそう どちらかというそうではない そうではない 該当しない参加していない 無回答	62.0 31.6 2.5 1.3 2.5 0				
中学2年 有効回答数 116	そうだ どちらかというそう どちらかというそうではない そうではない 該当しない参加していない 無回答	37.1 42.2 7.8 0 12.9 0	37.1 41.4 7.8 0 13.8 0	37.1 44.0 5.2 0 13.8 0	34.5 43.1 7.8 0.9 13.8 0	
中学3年 有効回答数 112	そうだ どちらかというそう どちらかというそうではない そうではない 該当しない参加していない 無回答	43.8 34.8 8.9 1.8 10.7 0	42.0 41.1 4.5 0.9 11.6 0	42.0 40.2 5.4 0.9 11.6 0	42.3 41.4 4.5 0 11.7 0	

7. 本校保護者対象の意識調査結果（令和7年12月実施）回答数454（単位％）

質問	大変該当する	やや該当する	あまり該当しない	全く該当しない	分からない
お子様は、実社会や身の回りの生活（学習、部活動等）のことに對して何かひとつでも好奇心をもっているものがあり、努力し改善に取り組んでいる。	35	49	13	7	1
お子様は、実社会や身の回りの生活（学習、部活動等）のことに對して、思い込みや思い付きでなく、事実に基づいて順序立てて論理的に考えようとしている。	21	62	13	1	3
お子様は、テレビ・インターネット等でニュースを見たり大人と話したりして、実社会や身の回りの生活（学習、部活動等）に解決すべき問題点を見出そうとしている。	18	56	21	2	3
お子様は、実社会や身の回りの生活（学習、部活動等）から見出した問題点に對して、自ら改善しようと取り組んでいる。	14	60	20	2	4
お子様は、実社会や身の回りの生活（学習、部活動等）に對しての課題発見や課題解決の経験を、各教科・科目の学びに活かそうとしている。	11	52	25	2	10
お子様は、各教科・科目で学んだことを、実社会や身の回りの生活（学習、部活動等）に對しての課題発見や課題解決に活かそうとしている。	13	58	19	1	9
お子様は、実社会や身の回りの生活（学習、部活動等）に對しての課題発見や課題解決、または各教科・科目の学びに取り組んだ後、自ら目標を立てて主体的に学ぼうとしている。	18	46	26	2	8

③運営指導委員会の記録

1. 令和7年度第1回佐賀県スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会

期日：令和7年7月11日（金）

場所：佐賀県立致遠館高等学校・中学校 大会議室

- 日程：1. 開会 15:30～15:40
 2. 研究協議 15:40～16:30
 科学英語の指導および沖縄科学技術大学院大学研修について／中間評価について
 3. 閉会・諸連絡 16:30～

出席者：運営指導委員 西郡大（国立大学法人佐賀大学副学長）／後藤聡（国立大学法人佐賀大学工学部教授）／徳田誠（国立大学法人佐賀大学農学部教授）／橋永貴弘（国立大学法人佐賀大学教育学部准教授）／荒木 薫（国立大学法人佐賀大学保健管理センター准教授）／露木 隆（国立大学法人佐賀大学アドミッションセンター准教授）／麻生茂（久留米工業大学副学長）／山田浩志（産業技術総合研究所九州センター）／小林 正樹（味の素株式会社九州事業所 所長）

管理機関 河北 薫（佐賀県教育委員会事務局学校教育課指導主幹）、片岡修史（同指導主事）

【普通科・理数科同時のポスター発表について】

（運営指導委員A）本日の発表についても、英語の発表については、毎年毎年どんどん向上していているといった印象を受けました。また、普通科のほうについて初めて見たんですけども、まだ、荒いんですけども、自由にやっている感じがよかったですと印象として残っていて、聞いていて、非常におもしろいなど、まあ、たくさん改善点はあるんですけども、非常に勢いといいたいでしょうか、そういった部分を感じたところでした。今後ですね、検討していく必要はあるんですけども、SSHの中で研究としてどういうふうに持っていくのかというのがある反面、教育としてですね、SSHの中で、教育としてどういう形で、こういった事業展開していくのかという、両側面から議論していく必要があると思いますので、皆さんの意見、皆さんで言語化しながら、そういったところを改善していければと思います。

（運営指導委員B）今回の、ポスターのプレゼンテーションと、英語の発表、ちょっとあの、部屋のキャパシティに対して、人数が多かったの、聞きづらい点は多少はあったかなという、英語のプレゼンテーションと日本語のプレゼンテーションのコントラス

トが見えたのは、英語のプレゼンテーションの時には、質問者は留学生だったです。自分と留学生でなかなか難しいのかなと思って。そのあと日本語のプレゼンテーションをみたら、フロアから活発に質問してまして、質問に対する回答の方もやっぱり、英語のプレゼンテーションではなかなか英語で回答しきれないなあというのはありましたけれども、日本語のプレゼンテーションでは、それこそ、自分たちでやった内容ですので、積極的に、ちゃんとかみ合った議論がなされていたので、最後の講評の時に言ったのですが、みなさん、日本語だったらできるんだから、英語でもできるようになればいいねという話をしたところでした。よろしくお願ひします。

(運営指導委員 C) 自分と同じ学年の子が英語で準備をしてるとか、理系の子も、文系の社会学的観点からのポスターを作ってるということが、同じ空間で、やれてるということは、それはそれで、利点があるのかなというふうに、個人的には思っています。テクニカルな分、今回、発表会でいわせていただいたんですけど、ポスター発表という観点からみると、ポスターが、ダラッとつくってあったのが印象的で、学会とかでポスター賞とか、そういう時に、いかに伝えるか、どこがあなたは一番伝えたいのという、自分のパッションですね、この研究の中であなたが、一番伝えたいということっていうのをしっかりうちだしてくださいと、それは、そうすることで今のプレゼンテーション、あなたのポスターが、ワンランクもツウランクも上がることになるでしょうというような、今日は講評をさせていただいたんですけども、まだその前段階ではあるけれども、そういうふうになれば、よりよくなるんだなというのが分かっただけでも、今日私がそれを伝えたことで、結構、ああ、じゃあここかな、とかいいながら、自分のポスターをもう一回振り返ってくれるような、生徒さんもしましたので、すごく貴重な面白い時間だったなというふうに思っております。

(運営指導委員 D) 今日、はじめてのトライアルだとも思いますけどね、ポスターセッションの、普通の学会のポスターセッションだったら、お客さん来るたびに、説明するんだけど、ちゃんと、時間を区切って、説明する時間をつくったり、っていうのは、ちょうど、大変、効率よく、発表もできて、ディスカッションもできるように、いいやり方だと思います。まあ、騒々しいかもしれないけど、ポスターセッションくらいは、いろんなところで、ざわざわりながら、やっていますのでね、そういうもんで、慣れておくっていうこともありますので、どれだけ自分で集中できるかっていう訓練だっていうので、そういうもんだというふうにしとけばいいんじゃないかと思ひます。

(運営指導委員 E) 普通科のみなさんの発表も、よくこのテーマ、自分で考えたなというのがあってですね、何人かにこれどうやって考えたのって、だれか先生に言われてやったのって思ひて聞いたら、やっぱり自分たちで考えてつくったとだったので、そういうふうに分たちの興味があったり、きっかけはいつかあるんでしょうけれども、そういうことを考えてやるっていう取り組みはいいんじゃないかなと思ひました。英語の方は、みなさん先生方おっしゃる通りなんですけれども、正直ですね、理屈でいうと、何を聞いたらいいのか、よく分んなかったっていうのは、あんまり本質を、突っ込んで質問すると、英語で答えにくい、結局、詰まってしまうと自信を失うことで終わってしまうとそれはもったいなと思ひて、ちょっと質問は考えながら、後でこそと日本語で聞いたりもししたんですけども、講評でもいったんですけども、ああいったところを繰り返し練習することで、自分で自信をもつていただく、それから、興味をもつて、好奇心を持って、いろいろ自分から自発的に取り組むっていうことをやれば、結果的に将来すごく役に立つんだらうと思ひます。企業にいてもですね、やっぱり、プレゼン経験ない方、たくさんいらっしゃいますし、大学で研究されてた方も、プレゼンが上手な方、あんまり上手じゃない方います。でも、伝わるか、伝わらないかっていうのが、結構大事なので、上手くしゃべれるとか、うまく英語でつたえるかっていうよりも、ちゃんと言いたいことが伝わるかっていう、その根げん？がすごく意味があるんじゃないかと思ひますんで、決してうまくいく、いかないの評価じゃなくて、自信をもつてできたかどうか、しっかり反省じゃないですけど、自分を振り返る何かしら取り組みをされたらいいとおもいます。

【AIの活用について】

(運営指導委員 E) 研究現場でいうと、積極的に使っています。じゃないと、時代にのりおくれまますので。ただ、なんでも入れこむという訳にはいかなくて、要は、これは、うちの研究所の特性なんですけれども、知財？とか、も確保していないやつは、入れ込むとそれも学習データになりますので、そういうものを除く、一般に知られたものに関する調査にかんするものですね。

ただ、学生の教育といった面では、かなり、先生たちも悩んでいますね。

(運営指導委員 D) 大学では、1年の後期から、AI概論ということで、2年前期でAI演習ということで、全学科です、それをやることで、支援費を文科省からいただいています。ほんとに役立つかなと、一応だけ、基礎は教えてます。あと、レポートなんかで、AIを使わないようにと、いうことは厳しくいってまますけど、AIを使ったかどうか、見抜けるほどソフトが発達するは((笑)わからないので、非常に困っているところです。

(運営指導委員 F) これから、我々企業も、AIは使っていこうと、また、そういうのができる人をつくろうと、使うことが前提なので、ちゃんと使える教育を若いうちからしていただくことが大事かと。出てきたのが、ほんとに正しいかどうか、正しいかどうかをまた、AIに入れて聞くと、そこで考えることは、大事かなと思ひます。

2. 令和7年度第2回佐賀県スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会

期日：令和7年10月17日（金）

場所：佐賀県立致遠館高等学校・中学校 大会議室

日程：1. 開会 15:20～15:30
2. 研究協議 15:30～16:30
3. 閉会・諸連絡 16:30～16:40

出席者：運営指導委員 西郡大（国立大学法人佐賀大学副学長）／後藤聡（国立大学法人佐賀大学工学部教授）／徳田誠（国立大学法人佐賀大学農学部教授）／橋永貴弘（国立大学法人佐賀大学教育学部准教授）／露木 隆（国立大学法人佐賀大学アドミッションセンター准教授）／麻生茂（久留米工業大学副学長）／山田浩志（産業技術総合研究所九州センター）／小林 正樹（味の素株式会社九州事業所 所長） 管理機関 片岡修史（指導主事）

【7月～10月の校外の発表会への参加について】

（SSH研究主任）7月初旬に理数科3年生が沖縄科学技術大学院大学 OIST の方に参加し、実際の大学での研究を肌で感じてきたところです。科学部のほうで、全国高等学校総合文化祭で、奨励賞（4位相当）をいただいております。まあ、質の高い研究を継続できているということです。SSHの事業として神戸で毎年、発表会がありまして、そちらの方で、鳥インフルエンザのチームが発表しております。課題研究で始まったんですけれども、今は部活動の方でこの鳥インフルエンザの研究を続けているところです。8月の中旬にかけて理数科大会がありました。機械分野、医療分野で賞をいただいております。熊本で英語による発表会も参加しました。今後、2年生ですけれども、つまようじタワーコンテストに参加をしようとしているところです。生徒たちも前向きにいろんなことにチャレンジして頑張ってくれているところです。

【中間報告会について】

（運営指導委員A）面白いテーマがふえてきたなーというのと、それから、一生懸命やってくれてるんだけど、アプローチの仕方がですね、まだあの具体的なモチベーションというところが十分、説明できない、言えない、で、いきなり本文に入ったりして、そういう意味で、プレゼンをするときの組み立て方なんかをもうちょっと工夫できるといいなーって思いましたね。それから、女の子でね、機械のことをしっかり調べてね、女性の工学部への参加をもっともっと増やしてということもあってですね、ああいう、関心を持ってくれる子が理科系で、増えてくれるといいなと思ったので、ぜひそういうので、エンカレッジしていただければ、いいんじゃないかと思いました。それから宇宙関係がでてきましたけど、衛星設計コンテストっていうのはずっと前からあったんですけど、それに出席してね、審査員からコメントもらったっていうことで出ましたので、そういったことも連携をしながら、コンテストに出してみても、その反応を、審査結果を、ああいう試みは新しいんじゃないかなと思いました。ぜひ、続けていただければと思います。以上です。

（運営指導委員B）高校の段階から、課題を見つけて、研究をするというのは、すごく価値があることで、いい土壌が作られているなどいうのはすごく感じました。一方で、目的は何なのかとか、あとそれに対してその方法がそれにあっているのかとか、そこらへんがちょっとずれているとか、そういうのが結構あって、何を解決したいからどんな実験をするとか、何を使うとか、そこらへんがあの目的とかが、そこらへんがちゃんと提示されてなかったり、方法があってなかったり、ていうのが比較的、多い印象だったので、そこらへん整理できるといいかなと思いました。あの、テーマ設定とかはすごくおもしろかったので、ぜひ、もっと深めてほしいなと思うのと、あと、先行研究とか調べているんですが、今のその自分たちの研究の立ち位置、どこまで出来ていてどこができていないのか、っていうところはやっぱりもう少し詳しく調べながら、しっかり整理することが、研究する上で最初に必要なことなのかと思うので、そこらへん、こだわって調べて厚みをましてくると、もっといい研究になれるのかなと思ったので今後、頑張っていたきたいと思います。

（運営指導委員C）プレゼンテーションの枠っていうのはあると思いますが、みなさん社会課題をまず提示して、そこからバックキャストで、自分の課題に話を持ち込むというスタイルでやってこられているので、まるで大人のプレゼンを聞いているみたいだな思いながら、逆にですね、新鮮味がないんですね。どういうキュリオシティ、好奇心で、その課題に取り組んだのか、一人一人の生徒のその、人物像っていうのが、見えてこないような、プレゼンにはなるのかなというように思って、逆にそこはちょっと残念だなと思いました。せっかく若いので、やはり何事も好奇心と冒険心で、あの、やっていけるような、スタイルがいいのかなと思ったところなんです。

3. 令和7年度第3回佐賀県スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会

期日：令和8年3月16日（月）

場所：佐賀県立致遠館高等学校・中学校 大会議室

日程：1. 開会 15:30～15:40
2. 研究協議 15:40～16:30

課題研究発表会について

出席者：運営指導委員 後藤聡（国立大学法人佐賀大学理工学部教授）／徳田誠（国立大学法人佐賀大学農学部教授）／橋永貴弘（国立大学法人佐賀大学教育学部准教授）／荒木 薫（国立大学法人佐賀大学保健管理センター准教授）／小林 正樹（味の素株式会社九州事業所 所長）管理機関 河北 薫（佐賀県教育委員会事務局学校教育課指導主幹）、片岡修史（同指導主事）

【青鶴課題研究発表会について】

（運営指導委員 A）SSH に関わっておそらく 20 年、毎回、楽しみにしています。今回もあの、発表を聞かせていただいたんですけど、今回特に感じたのは、研究テーマの決め方とかが、非常にうまく設定されているんですね、こちらも興味深く、聞かさせていただきました。生徒さん皆さん、仮説をたてて、仮説に基づき実験計画をたて、実験を実施して、結果に対しての考察も発表の中に入れていましたので、非常に良かったなと思っています。今回、論文というか、アブストラクトを準備していただきましたので、これも非常に助かりました。質問の内容を考えるのに、こちらを参考にさせていただきました。あと、質問に関しても、発表の最初の 1, 2 件は質問はちょっと、フロアから出なかったのが、ちょっと心配したんですけど、そのあと がほんとに積極的に質問されて、こちらの質問する機会がないぐらい、積極的にされてましたので、それも非常に良かったかなと思います。あと、しいていえば、発表の時に、原稿を読んでいる生徒さんがいましたので、できれば、頭の中で、聞いている人の顔を見て、プレゼン出来たらもっと良かったかなと。総じて非常に良かったです。楽しませていただきました。以上となります。

（運営指導委員 B）今年はですね、時間を考えて間に合わないから、修正して何かしら結論まで出した班がとて多かったです。まあ、これは、?? 賛否あると思うんですけど、個人的には取り組みがある以上、やってみました、できませんでしたよりも、なにかしらやって結果が得られれば、考察だったり展望だったりできるので、発表としてはまとまった発表が多かった。縮まるというか、結論はちゃんと何かしらあってってことで、それは個人的にはよかったのかなという気はしました。一方で逆に結論があるからこそ見えてくる穴というか、それってスタート地点とあってる？みたいな（笑）最初の目的はこうで、思考が急にとんで、よく分らないつながらりて、結論があって、考察がずれてたりすると、もともと何がしくて、何が目的でとかいうのは、ちょっと気になることが多かった、となると、テーマを決めた後に、テーマに関してどういう問題があるのかとか、どういうアプローチが有効かとか、てことはあんまりつめずにやってる。やったけど、最初のテーマもあるから、そこは変えない。で、内容も変わらない。で、内容が決まっているので結論も変わらない。ちょっとずれている。なので、コメントしたのは、内容は変わらないけど、見せ方はまだまだ変えられるわけだから、次、英語で発表するんだけど、単に英語にかえるんじゃなくて、もう 1 回、自分たちのやったことを、どう見せればいいのかという訓練はやったほうがいいかなあ?? やったことに対して得られた結論がはまるような、中目標? なり、小目標? を設定してくれば、ちょっと筋が通ると思う、そういうテクニックっていうのは、まあやっぱり当然なくて、ないゆえに少し発表としては、「あれ結局なににしたっけ?」みたいな、ちょっとあります。でもそれはいいことだと思います。今までは、結論がないから、結局まとまなくて、なる??、今回ちゃんと結論があったから、逆にそれってそもそも?? とすると、そこに対する指導っていうのをもう少ししてあげないと、学生だけにやらせると、なかなか難しい、ちゃんとステップを踏んで、ちゃんと 1 個 1 個つなげていくようなことをやっていくと、少し研究としてよく見えるのかなと、そういう印象を受けました。

（運営指導委員 C）「一つ発表にテーマを、あなたの一番の主張を込めて下さい」って言ったんですね、結局この 8 分で、あなた、一番伝えたいことをしっかりグループ内、そして先生と共通認識としてもっていただきたいっていうふうに思ってて、それがあったら最初の目的を伝えたいと思ったけど、実験はちょっと違った方向にいったとき、こっちに立ち返ることができる、最初こういう目的だったという軸があったんだけど、実験は違う方向にいったんですけど一言いってあげれば、そうなんだと思うけれども、本人も最初の目的と違う方向にしていることに気付いているのかいないのかよく分からない発表になってしまっていて、それを、自覚されてあるのかな、分からず目の前の実験に一生懸命になって、目の前の発表に一生懸命になっているのか、こっちは迷いながら聞いていたので、なんかその目的、なんでもそうですって言って、研究発表だけでなく、大学の入試で面接受けるときでも大人になってからもそうですよって言って、しっかり何を言いたいのかっていうのを自分の中、そしてグループの仲間、そしてそれを先生とも共有しておくっていうのは大切なことで、SSH で得られる能力の 1 つじゃないかなと思っておりまして、自分が先生だったらそこは絶対入れてもらいたいと思う力だと思いつつ聞いていました。

（運営指導委員 D）多分その、原因と結果が、あの、要はそのこうやるんだと分かっていると本来は、ずれないはずなんですけどね。やってることが。ずれていくってことは、たぶんその背景が分かってないので、ずれていって、今、おっしゃられたように、ずれてしまうと、やっぱり、ずれたのに合わせたイントロでうまく作らないと話が通じなくなるというか、イントロでこういってるのにやってることが違って別々の出口に出ちゃったみたいになると、聞いてもやっぱり、ふんってなっちゃうので、こっちへこういうふうに面白いことが分かったんだしたら、これはじゃあ、それは学問上どういう意義があるんだろうって思ったときに、こっちのイントロからはなすと「これすごくいきるよね」とかいうふうに、そこをホントはうまく、組みなおせる、まあでも大学生でも結構むずかしいので、なかなかあのちょっと。

④教育課程上に位置付けた課題研究において、生徒が取り組んだ研究のテーマ一覧

1. 学校設定科目「青鵲課題研究 AP」(理数科3年)

分野	タイトル
医療系 1	Detection of Avian Influenza Virus in Ariake Sea by RT-qPCR Method
医療系 2	Comparative study on the long-term sterilization effects of Ethanol, Silver Ion and Titanium dioxide
医療系 3	Prevention of fractures by using Non-Slip-Tape on stairs~focus on locomotive syndrome~
医療系 4	Effect of Streptococcus bacteria in saliva by beverages containing theaflavin.
化学 1	Challenges and Prospects for the Practical Application of microorganism battery
化学 2	Glazes and subtractive color mixing ~Aim to make Chienkan blue~
化学 3	Relationship between osmotic pressure of superabsorbent polymers and ions for increasing greenery in the desert
化学 4	Control of medicine release time using crosslinking reaction
機械 1	Design of a Savonius Wind Turbine for Power Generation in the Plains of Saga City, Saga Prefecture
数学・情報 1	Creating a Smart Door System with Authentication - QR: Your Safe and Smart Classroom Key-
数学・情報 2	Development of an attendance tracking system "Empower your student ID"
数学・情報 3	Rule of human behavior in simulation
数学・情報 4	Revolution of Education by Gamification
数学・情報 5	Creating math community site by programing
電気・電子 1	Solving noise problems using noise canceling technology
電気・電子 2	Aim Efficient Power Transmission~Make Space through Wireless Power Transfer~
都市工学 1	Impact of SAGA SUNRISE PARK on the surrounding area and Issues
都市工学 2	Reduction of traffic accidents by promoting bus transportation
都市工学 3	A study about public service and convenience of living
農学 1	Differences in survival due to water quality between Lake prawns (sujiebi) and alien species Chinese lake prawns.
農学 2	Ecology-Based Conservation Strategies for <i>Suaeda japonica</i>
農学 3	Effect of fructo-oligosaccharide on the growth of butyric acid bacteria
農学 4	Effects of nitrogen compounds on phytoplankton
物理 1	Aim for stable wind power generation ~influence is given by change moment of inertia~
物理 2	Can factory waste heat be used effectively - Towards the practical application of thermoacoustic engines?
物理 3	Fire extinguishing by sound
物理 4	How can non-glare be suppressed

2. 学校設定科目「青鵲課題研究」(理数科2年)

分野		タイトル
数学・情報	1	購買の混雑を減らすために
数学・情報	2	高校生に向けた理系教材のデジタル化とその有効性
数学・情報	3	ゲーミフィケーションを活用した学習ツールの可能性
都市工学	1	雨庭による水害の緩和
都市工学	2	観光振興に向けた MaaS 活用の可能性
物理	1	熱音響機関の実用化に向けて~温度差による音波生成のメカニズム~

物理	2	「電力-気流」直接変換の可能性～八の字型電極を用いたイオン風発生装置の開発～
物理	3	木造建築で持続可能な建築を
物理	4	配置による圧電素子の耐久性の差異
物理	5	建築業界に新たな選択肢を～I型の梁と断面二次モーメントの関係～
物理	6	吸音性が期待できる構造とは～粘性摩擦を利用した音エネルギーから熱エネルギーの変換
物理	7	物理で描く！堤防の形状～放物線で作る理想の堤防～
医療系	1	pHの上昇によるリン酸カルシウムの再沈殿の抑制
医療系	2	活性炭吸着とゼラチンカプセル化によるAPAPの徐放性評価
医療系	3	マインドフルネスが高校生に及ぼす影響
医療系	4	茶葉は非常時に役立つのか
医療系	5	味の相互作用を用いた甘味の再現
医療系	6	認知機能の維持を目的とした音楽療法の可能性
農学	1	柑橘類給与による魚の身への抗酸化作用
農学	2	腸内環境の改善に向けて～酪酸菌の増殖における最適な環境～
農学	3	新たな抗がん物質としてのSCFA
農学	4	スジエビの生存を左右するものは何か～塩分濃度に対する耐性の比較～
農学	5	シチメンソウの発芽に適した条件
電気・電子	1	一石トランジスタアンプの作成と改良～初学者レベルから実用可能な水準まで～
電気・電子	2	農業の自動化に向けて～土壌水分センサーを用いて効率的な水やりシステムの制作～
化学	1	納豆菌を用いた水質浄化
化学	2	自然由来物質の抗菌作用
化学	3	溶媒条件の違いによるフラボノイド抽出量の変化
化学	4	カプセル栽培

3. 学校設定科目「青峰探究」

(普通科3年) アンケート調査等ほぼ全グループができています。統計処理は平均までだった。

- 教育 グローバル時代の英語教育とは？-大学入学共通試験から見る日韓のアプローチの違い-
- 教育 子どもの笑顔があなたのボーナス 教育 「生き残れ！！致遠館！！」
- 教育 「先生の授業見学してみた！！」 教育 発表を増やそう！！
- 健康・福祉 運動しないと、10年後に後悔するぞ！？その時、体がサビてるから！
- 健康・福祉 間食=罪悪感？それ、もう古い！ヘルシーおやつ革命
- 健康・福祉 体育大会いつやるの？ 春かしら🌸
- 言語 カタコト英語からの脱却 言語 English Class Innovation 言語 歌詞で詠む時代の変化
- 社会学 SNS×地域創生
- 工学 最強のトイレを作ろう
- 経済 佐賀を元気にする空き家の活用法 経済 大ヒット商品の秘訣？それ、うちの研究所で解明中
- 経済 満足度の高いコンビニを作るにはアレが必要！？ 経済 吉野ヶ里を盛り上げよう
- 経済 日本に成果主義を浸透させよ Mission1 経済 「田舎力」を活かした佐賀の新しい観光の在り方
- 心理 聴く力3原則 心理 自己制御能力を高めるには 心理 沈黙の教室 ～同調圧力からの脱却～
- 心理 集中できる自習室とは？ 心理 広告×購買意欲
- 法律 君の更生率をあげたい 法律 外国人のことどう思う？意識調査で見た本音
- 心理 ほんとに？嘘みたくない最強人間になる方法 心理 恋愛マスターを育成するには！！！！
- 農学 猫が一番楽しく遊べる玩具は？ 農学 佐賀盛り上げ大使 うれしの茶

(普通科 2 年)

タイトル (79 テーマ)
<p>戦争の功罪/戦争と幸福/科学と宗教/民族と文化/正義とは何か/女性の物語/法と感情の関係について考える/マネジメント/経済について/心理と経済/刑罰の目的を再定義せよ/観光と移民から眺める経済/共生を日本とODAから考える/日本でプレーする海外国籍選手/売れ残りを減らすために/米の価値/自動車広告のキャッチコピーから見る時代と自動車の関連性/購買意欲/身体心理学/流転の終止符/精神疾患とコミュニケーション/複雑化する現在のストレスと精神疾患/正しい感情はあるか/文学に用いられる言葉から/同じ面積でも「広く見える/狭く見える」要因は何か/偏見に対する偏見/見る世界と見える世界/自分とは何か/無意識と言葉/感情をマネジメントする/心理的影響から音楽のブランド化を図る/食わず嫌いとは認知的錯覚の関連/トロッコ問題におけるバグの選出/精神疾患と心理要因/自由/言葉と人間の営み/音楽から読み解く国民性/コミュニケーション再構築/消滅危機言語について/繋がることの難しさ/SNS が民主主義に及ぼす影響/表現力と想像力/情報/服は人間を操る/コミュニケーションツールと心理/紙とデジタルの利用の最適解/音楽と共に学ぶ英語/現代社会における芸術の役割と美の基準/ファッションから社会を眺める/心に残る映像/映像の功罪/デザイン/西洋文学から読み取る個人の在り方の移り変わり/国連と大国/フィリピンについて/外国人に対するヘイトスピーチ問題/オーバーツーリズムについて/ 致遠館を 開 国 さ せ よ う ! /睡眠欲がもたらす影響/睡眠がもたらす頭痛解消の効果/AI による教育改革/「社会人」を作るための「社会科」を作る/「学び直し」があたりまえなレジデンス作り/学習動機/快適な教室作り/色、空間が与える視覚への影響/災害関連死/周辺地域を巻き込んだ地域活性化/農業を誰でも出来るものへ変える/地域医療と過疎化/新しい民間療法をつくり出す/遺伝子治療はどのような場合にしたらいいのか/動物愛護管理をめぐる主な課題への対応について/密度の高いシフォンケーキ/最強の食事/温泉がもたらす身体作用について/生ごみ分解における菌分解/化粧水の浸透率について/動物とヒトの初乳に含まれる抗体の作用+ヒトと動物の初乳に含まれる抗体の細菌抑制効果の比較/カメは馬鹿じゃない</p>

(普通科 1 年)

タイトル (50 テーマ) 下線はアンケート調査等までできたグループ
<p>平成レトロの人気の秘密/休めばいいじゃん/日本文化がつくる東京ディズニーランドの魔法/何が Mrs.GreenApple の人気を作っているのか/なぜ外国人にとって日本語のオノマトペは難しいのか/知ろうムスリム/フィクションをノンフィクションに/アニメがもたらす利益/宿題は本当に必要なのか/映画がもたらす経済効果/野球が生む経済効果/鳥栖を住みやすい街へ/ディズニー映画から考察するプリンセスである条件/やらされる星人→やってみる星人/スマホ依存とその改善/カロリーオフでもおいしい! しあわせおやつ研究/ドラマから考えられる女性像の変化/子どもとアニメ/選挙への関心について/ホラー映画における恐怖の対象の変化/地球温暖化がツマグロヒョウモンに与える影響/交通系 IC カードの普及と変遷について/SNS の流行が高校生の行動や考え方にどんな影響を与えているのか/ディズニープリンセスが描く幸せのかたち/リバイバルブームについて/環境に基づく言語/佐賀の有名な食べ物を作るには/授業中眠くならないようにするには/推しと幸福度について/色がもたらす身体能力の効果について/機械化から自動化へ/学生の職業選択について/授業で当てられたくない人集合/肉体改造大計画/性格診断と自己理解/ハッピーエイジング/日本人と外国語/外国人が暮らしやすい佐賀県にするには/怒り/本当のハッピーエンドとは/理想の学校をつくってみたトイレをもっときれいに/J リーグの財政赤字は回復できるのか/広告で人々の心をつかむ/睡眠の質を高めて、どうやって授業を寝ずに集中して受けられるか/男女の友情は成立するのか/雀の減少/お札のかおになるには/ラプンツェルになりたい/方言は地域の文化や歴史をどのように反映しているのか</p>

④用語集 (学校や管理機関が独自に考案したり独自の使い方をしたりしている用語)

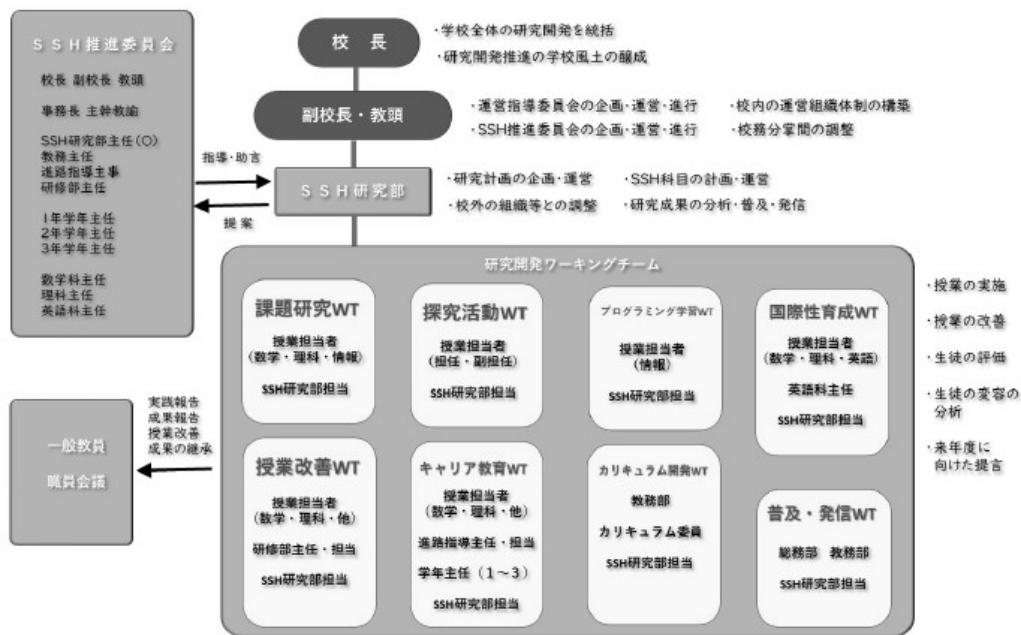
用語	意味
<p>青鵲新 STEAM 教育プログラム (せいじゃくしん STEAM きょういく プログラム)</p>	<p>本校と佐賀大学の 1 対 1 の強い連携を表すため、本校のスクールカラーである「青」と佐賀大学の校章のデザインにも用いられている「カササギ (鵲)」を用いた。また、本校 SSH で目指す「志」高く学び続ける科学的人材に必要な資質である、理学的な発想 (Science)、工学的な発想 (Technology・Engineering)、農学的な発想 (Agriculture)、医学的な発想 (Medicine) の各学部の頭文字を合わせ、従来の STEAM 教育 (A:Art、及び M:Mathmatics) と一線を画すため「新」STEAM 教育とした。</p>

⑤開発した独自の教材等一覧

科目名	資料名	概要
<p>青峰探究 (普通科 1 年)</p>	<p>eStat のはじめ方</p>	<p>普通科高校 1 年生が統計データを触れながら、探究活動の概要が分かるように開発した。</p>

⑥研究開発体制

研究開発の推進・管理体制



運営指導委員 委員長 山下宗利 (国立大学法人佐賀大学 副学長)

佐賀大学 西郡大 (副学長)、後藤聡 (理工学部教授)、徳田誠 (農学部教授)、橋永貴弘 (教育学部准教授)、荒木薫 (保健管理センター准教授)、露木 隆 (アドミッションセンター准教授) / 学校法人久留米工業大学 麻生茂 (副学長) / 国立研究開発法人産業技術総合研究所九州センター 山田 浩志 (センシング技術研究部門 総括研究主幹) / 味の素株式会社九州事業所 小林正樹 (所長)

管理機関 佐賀県教育委員会事務局学校教育課 山口明德 (課長)、河北薫 (指導主幹)、片岡修史 (指導主事)

佐賀県立致遠館高等学校・致遠館中学校スーパーサイエンスハイスクール推進委員会

井原敏裕 (校長)、北川宏武 (副校長)、中嶋啓之 (教頭)、進藤安恵 (事務長)、山下知子 (主幹教諭)、上赤真澄 (理数科主任)、宮副智之 (SSH 研究部主任)、三原正輝 (教務主任)、中川和親 (進路指導主事)、小川慶輔 (高校第一学年主任)、高場清子 (高校第二学年主任)、小野立晃 (高校第三学年主任)、加茂隆信 (数学科主任)、松本平 (英語科主任)、森田一平 (理科主任)